

れいはいはさいこうのしゅくぶく



わたしを あいしてくださる かみさまに
さいこうの えいこうを ささげましょう



よに だまされた ハマン

いのり

しかいしゃ

しとしんじょう

みんなで

さんび

さんびか 268 ばん (しん 505 ばん) 「せかいじゅうにのべつたえよ」 ていこくのり (2020 ねんこどもさんび)

せいしよ

エステル 3 : 1

エステル 3:1 この出来事の後、アハシュエロス王は、アガゲ人ハメダタの子ハマンを重んじ、彼を昇進させて、その席を、彼とともにいるすべての首長たちの上に置いた。

みことば

よに だまされた ハマン

しかいしゃ

ハマンは、ペルシヤの王アハシュエロスの首長の中でいちばん上に立つ人でした。王の家来たちはみな、ハマンに対してひざをかがめてひれ伏しました。アハシュエロス王がそのように命じたからです。しかし、モルデカイは、ハマンにひざもかがめず、ひれ伏すこともしませんでした。

怒ったハマンは、モルデカイとその民族であるユダヤ人を殺そうと、悪い計画を立てました。アハシュエロス王にユダヤ人は王の法令を守らないとうそをついて、王が国にいるすべてのユダヤ人を殺す命令を出すよう仕向けました。

この事実を知ったエステル王妃は、王のために宴会を開いて、そこに王とハマンを招待しました。そして、その席でハマンの悪い計画を王に知らせて、自分とユダヤ人を救いました。ハマンは、モルデカイを殺すために立てた柱に自分がかげられて死にました。

この世の権力にだまされると失敗して、結局、神様の契約の前にひざまずくようになります。私たちは、永遠に変わらない神様の契約の前に先に従順なレムナントとなり、この世を生かす準備をしましょう。

いのり

いっしょに おおきなこえで
いのりましょう

ちちなる かみさま、ありがとうございます！ このよの ことに だまされなくて えいえんの イエス・キリストの けいやくを にぎって まことに しょうりする レムナントになりますように。 いきておられる イエス・キリストの みなによって おいのりします。アーメン

しゅのいのり

いっしょに しゅのいのりを いのって れいはいを おえましょう

フォーラム

きょうの みことばを きいて パパとママと はなしを しましょう



133とは、みことばを 1にち 3かい 3かいずつ よめば
いっしゅうかんに おぼえることが できるという いみです。



げつようび

あまくて ふしぎな かみさまの みことばを まいにち よみましょう。
よく みえる ところに はっておいて いっしゅうかん
くりかえし よんで みことばを おぼえましょう

この できごとの のち、

アハシュエロスおうは、

アガグじん ハメダタのこ ハマンを

おもんじ、かれを しょうしんさせて、

その せきを、かれと ともにいる

すべての しゅちょうたちの

うえに おいた。

エステル3 しょう1 せつの みことば

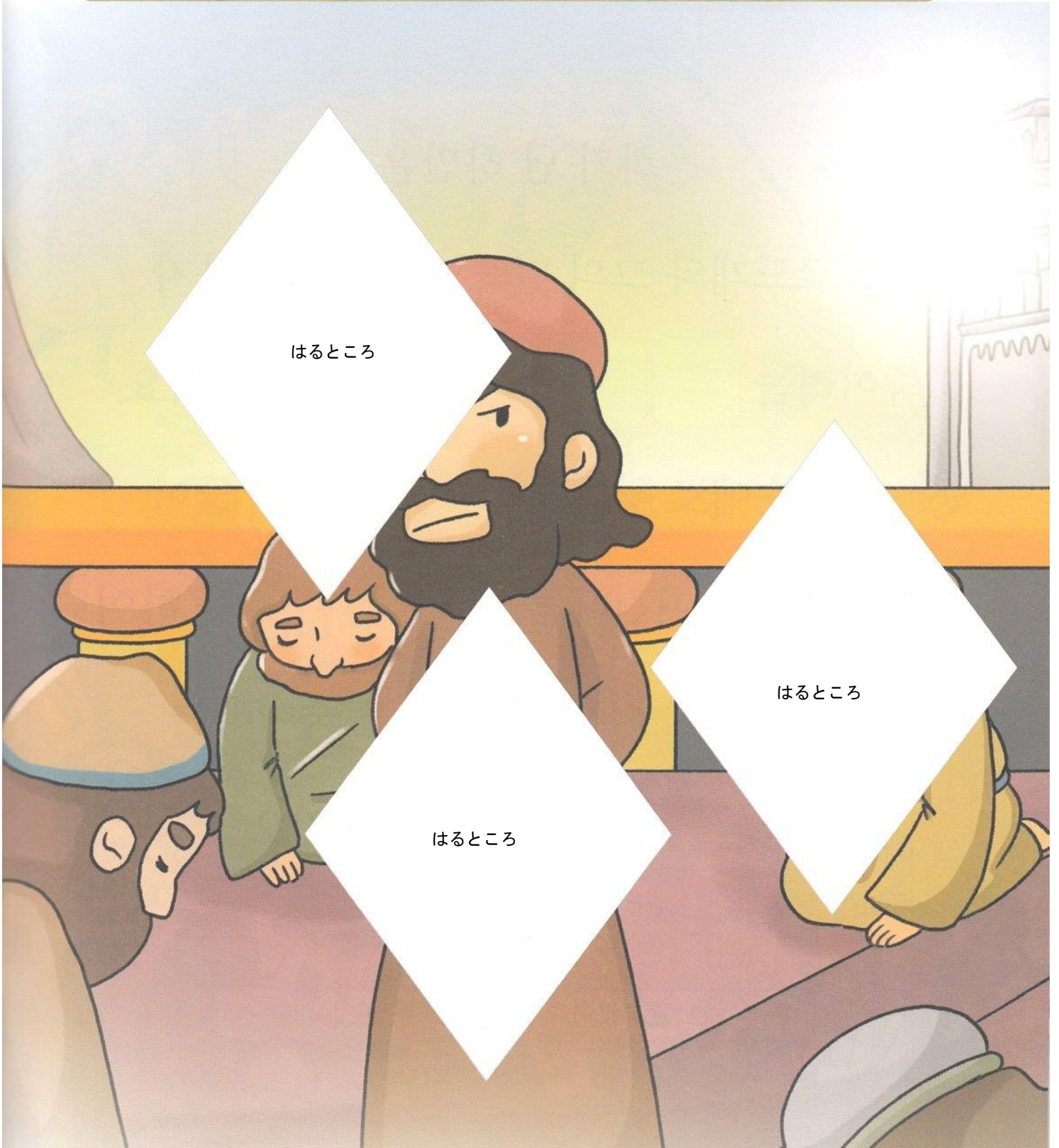
しゅちょうの なかで いちばん うえに たつ ひとに なった ハマンに
すべての けらいは ひざを かがめて ひれふしました。
しかし けいやくを もっていた レムナントの エステルを とおして
かれの わるい けいかくは くずれて しまいました。
みことばを おもいだしながら つぎのページの えを きりぬいて
あいている ところに はりましょう。

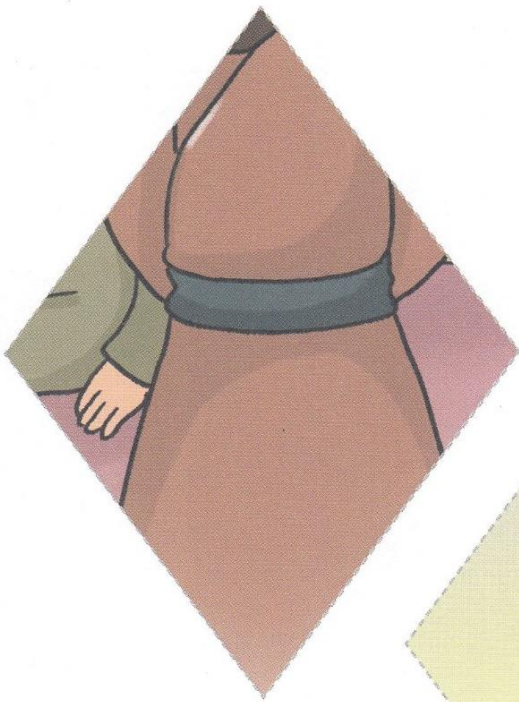
じゅんびする もの： はさみ のり つぎのページ

はるところ

はるところ

はるところ





きょうも パパとママと いっしょに れいはいしましょう。
きょうの みことばで じゅうような たんごを もういちど
かんがえてみましょう。
したの ぶんしょうの あいている ところに あう たんごを
いれましょう。

おこったハマンは、モルデカイと
その みんなぞくである ユダヤじんを
ころそうと、 を たてました。

アハシュエロスおうに は

おうの ほうれいを まもらないと

を ついて、おうが くりにいる

すべての ユダヤじんを ころす

を だすよう しむけました。

ユダヤじん、 わるい けいかく、 めいれい、 うそ

どこ？

かくれている えを みつけたら きれいに いろを
ぬったり しましょう

26

もくようび

かみのこどもに ある くるしく たいへんな もんだいは かみさまが
そなえて おられる しゅくふくです。 わたしは かみさまが
くださった しゅくふくを あじわいさえすれば よいのです。
イエスさまについていく したの えに いろを ぬって
かんせいさせましょう。



パパとママと いっしょに おはなしして
かみさまが よろこばれる かんがえ ことば こうどうを
えで ひょうげんしましょう。



27

きんようび

あうのが いやで きらいな ひとは いますか。 そのように おもう
わたしの こころを かみさまは どのように みておられるでしょうか。
かぞくと いっしょに はなしを して えか じで ひょうげんしましょう。



たのしい ワークをして いっしゅうかんの みことばを
こころに きざみましょう



28

どようび

わたしは エステルのように かみさまが えらんで くださった
レムナントです。 つぎの ページからの エステルの どうわを
よんで レムナントのエステルの エステルに いって あげたい ことを
はなしましょう。 また わたしに いって くれていた ことは
なにかを かんがえましょう。

じゅんびするもの | つぎのページからの エステルのおはなし

せいしよどうわを よんで しゅじんこうに こえを かけよう！



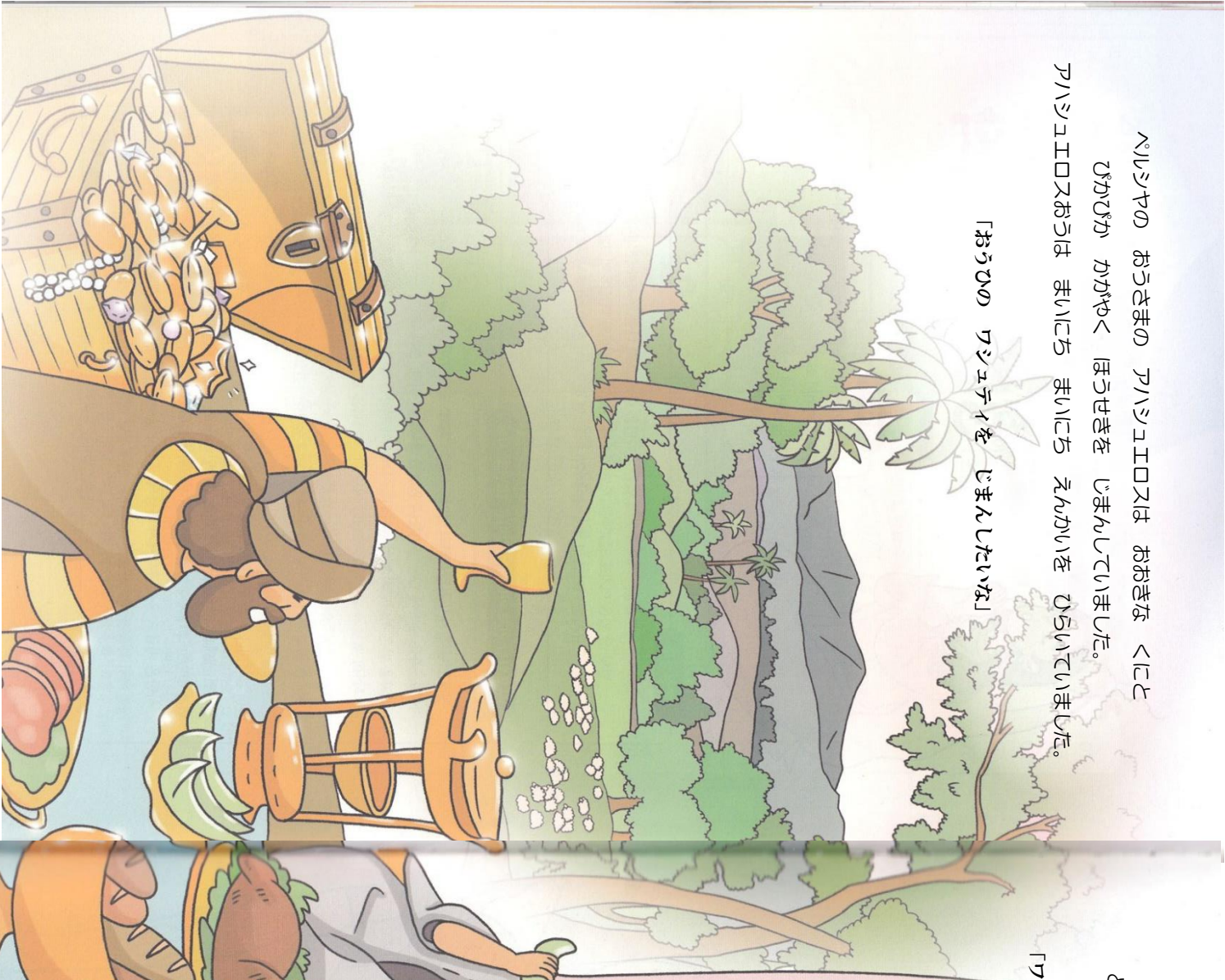
1. せいしよどうわを よみます
2. しゅじんこうに いいたい ことばを かんがえましょう
3. ふさわしい ときに しゅじんこうに こえを
かけましょう
4. しゅじんこうは わたしと おかあさんに なにを
いってくださいか
5. かみさまに かんしゃの いのりを して おわりましょう。



アハシヤの おうさまの アハシエロスは おおきな くにと
ひかひか かかやく ほうせきを じまんしていました。

アハシエロスは まいにち まいにち えんかいを ひらいていました。

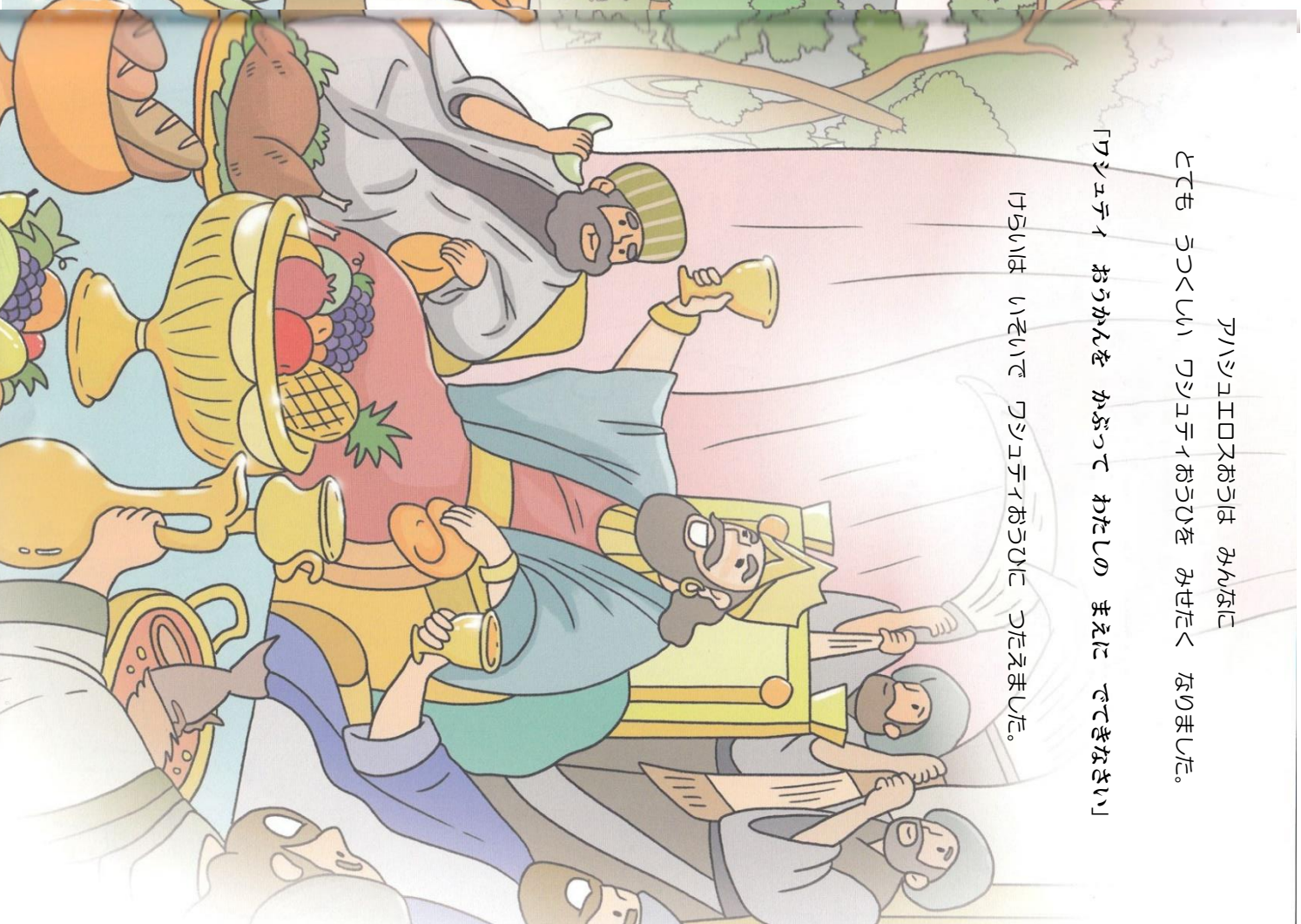
「おうひの マシエチを じまんしたいな」



アハシエロスは みんなに
とても うつくしい マシエチおうひを みせたく なりました。

「マシエチ おうかんを かぶって わたしの まえに できてなさい」

けらいは いそいで マシエチおうひに つたえました。



ワシユティおうひち えんかいを ひらいて たのしんでいました。
じぶんにつかえて いうことを きいてくれる けらいが いて
きぶんが よかったのです。

「おうひさま、 おうさまが いま えんかいを ひらいて おられます。
おうかんをつけて おうさまの まえに でてください」

じぶんの えんかいで すっかり よつていた ワシユティは
いやそらに いました。


「いまは とっても いそがしいの」

ワシユティおうひは いくことを ことわりました。

アハシエロスおうは とても おこって
けらいに めいれい しました。

「ワシユティを おうひの ざから
おいだしてしまえ！」






ときが すぎて けらいたちが おうに いいました。

「おうさま、 おうひを さがしては いかげですか。

くにしゅうから うつくしい おとめを あつめましょう」

おうは すなおに そうすると いいました。



くにしゅうの うつくしい おとめが

おうきゅうに みんな あつめられました。

ユダヤじんだった エステルも よばれました。

エステルと おとめたちは おうの まえに てる

じゅんびを しました。


エステルは じぶんを そだててくれた モルデカイが

いった ことを かんがえました。

「エステル、 あなたが ユダヤじんだという ことは

ぜったいに いわないように」

エステルは モルデカイの ことを こころに とどめていました。



エステルが おうさまの まえに だた とき
アハシユエロアおうの めが おおきく なりました。

「なんて うつくしい むすめなのか！

エステルを おうひに むかえよう！」

エステルは かみさまの めぐみで おうひに なりました。

マハシュエロアおうは いつも けらいの ハマソの いうことを
きいています。

「わたしは ハマソを とても たいせつに おもっている。

かれが とおるとき すべての たみは かならず

ハマソに ひさを かかめて ひれふすように。

ハマソは すべての けらいの いちばん うえの みぶんだ!

ハマソは じぶんに ひれふす ひとびとを みて
えらそうに していました。

ところが ただ ひとりだけ ハマソに ひれふさない ひとが いました。
モルデカイです。

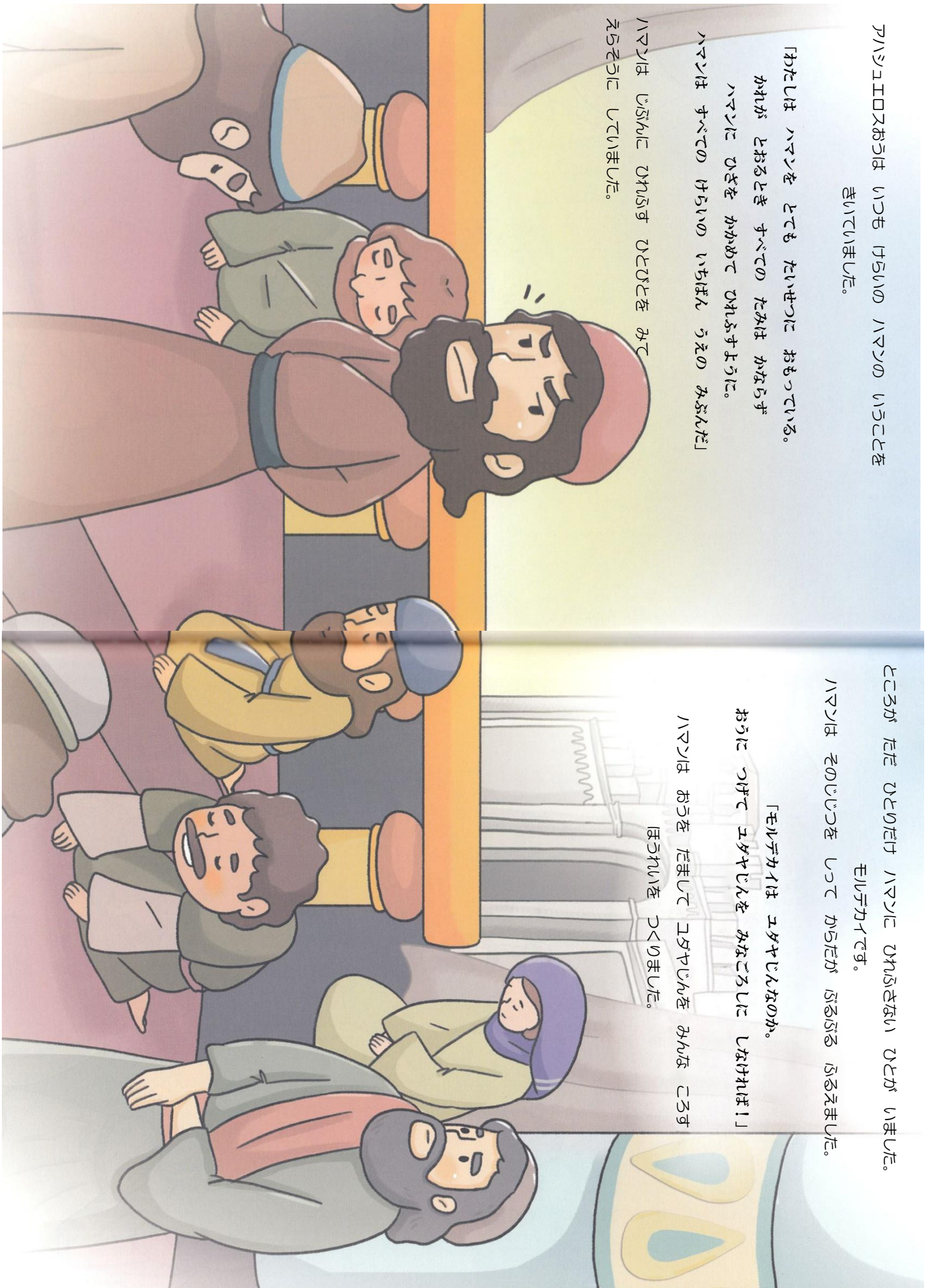
ハマソは そのじじつを して からだが ぶるぶる ぶるえました。

「モルデカイは ユダヤじんなのか。

おうに つげて ユダヤじんを みなごろしに しなけれぼ!」

ハマソは おうを だまして ユダヤじんを みんな ころす

ほうらいを つくりました。



メルテカイは この じじつを エヌテルに つかえている ひとに つたえました。

「わたしたちの みんなが みな ころされることになった。
おうの まえに でて おうに あわれみを もとめてくれ」

しかし エヌテルは けらいを とおして でんごんを つたえました。

「おうが よばないなら おうの まえに できれば ころされます。
おうが きんの しゃくを のげせば そのひとは いきます。
わたしは この30にちかん おうの まえに よばれていません」



メルテカイは エヌテルに いいました。

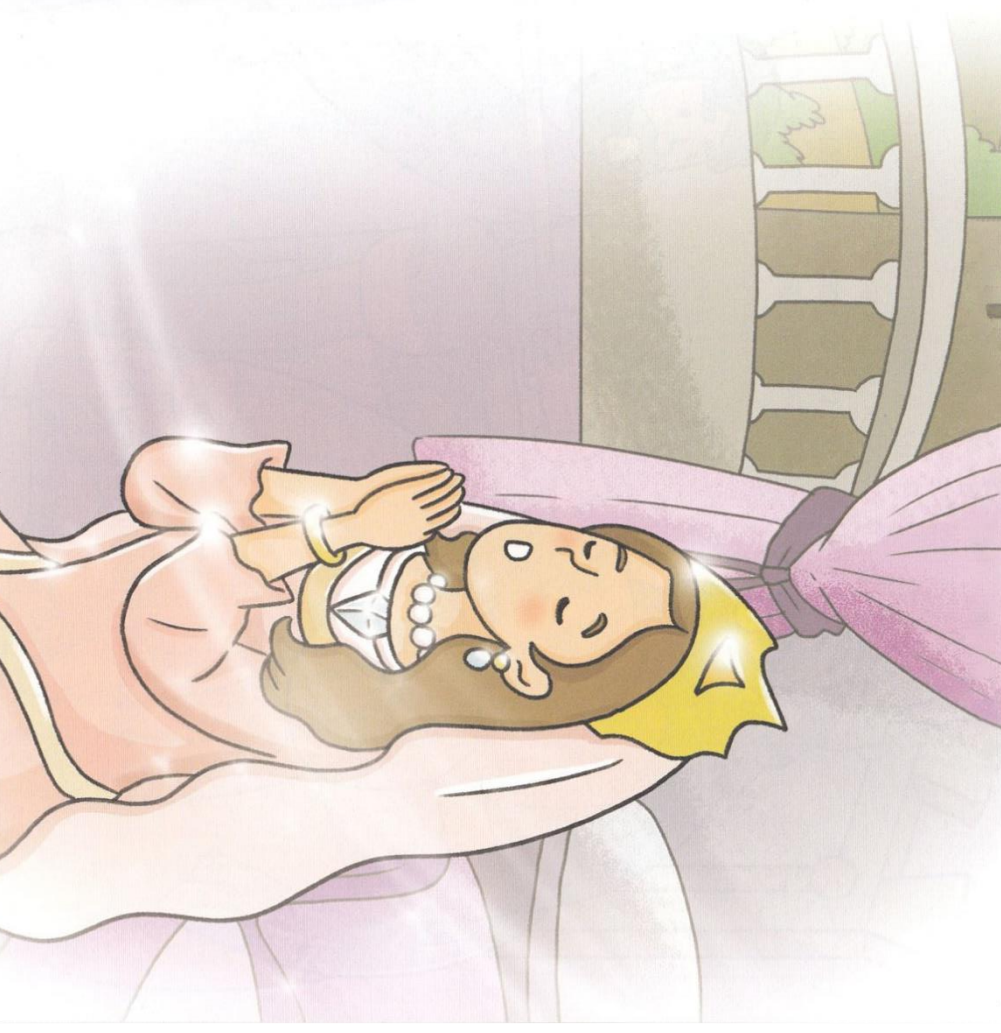
「あなたは おうきゆうに いるから たすかるだろうと かんがえては ならない。
あなたが おうひになつたのは このひのためでは ないのか。」

エヌテルは かみさまの まえで かんがえて こころに ちからを うけました。

「すべての ユダヤじんを あつめて たべないで いのつて ください。

わたしも なにも だべずに いのつた あとに おうの まえに できます。

わたしは、しななければ ならないのでしたら、しにます。」



エステルの かみさまからの ちからを うけて おうの まえに できました。
おうは エステルを みて こころが うれしく なりました。

「うつくしい エステルのことを わすれていたな。

ほんとうに あいすべき おうひだな」

おうは すぐに きんの しゃくを エステルに のびしました。

「エステル。わたしに あいに来たのは なにかあるのか。

おうこくの はんぶんでも

あなたに あげることが できるのだが」

つぎの ひ エステルが じゅんびした えんかいに おうが きて

ちういちど たすねました。

「エステル。あなたは なにを ねがっているのか。

なんでも あたえよう」

エステルは いいました。

「おうさま、 わたしの えんかいに もういちど きていただけますか」

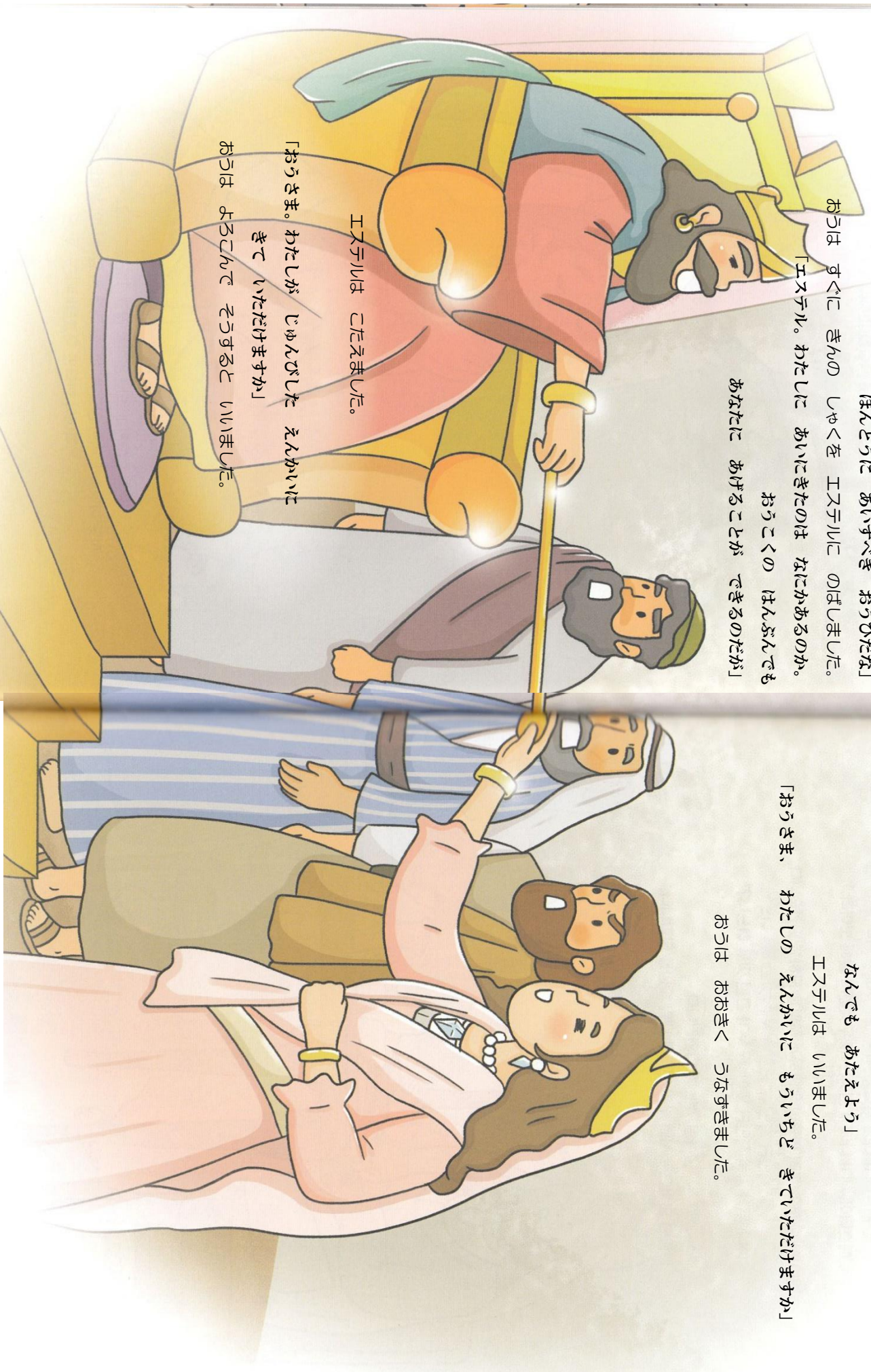
おうは おおきく うなずきました。

エステルは こたえました。

「おうさま。わたしが じゅんびした えんかいに

きて いただけますか」

おうは よろこんで そうすると いいました。



つぎの ひの えんかいには ハマンも いっしょに しょうたいしました。

おうが いいました。

「エステル、あなたは わたしに なにを ねがうのか。いつてみなさい」

「おうさま、わたしと わたしの みんなが ころされる ことになっています。」

「それは いったい だれが ころすと しているのか。」

だれが そんな ことを したのか」

「じつは わたしは エダヤじんです。」

ハマンが わるい けいかくを たてたので

わたしと わたしの みんなは あす ころされます」

おうは エステルの ことばを きいて とても はらを たてました。

ハマンは エステルが エダヤじんだという じつを して

とても おどろいて おそれました。

おうは ハマンが モルチカインを かけて ころそうとしていた きに

ハマンを かけました。それで おうの いかりは おさまりました。

おうは ハマンの いえを エステルの てに まかせました。

このときから エダヤじんは いのちを すくって ぐださった

かみさまに かんしゃして すこいを わすれないように

ツリムまつりを いわうようになりました。

